audfly mini

設置上の注意点

audfly miniを設置する際は、「設置上の注意点」を必ずお読みください。
誤った設置方法による機器の故障は保証対象外となります。

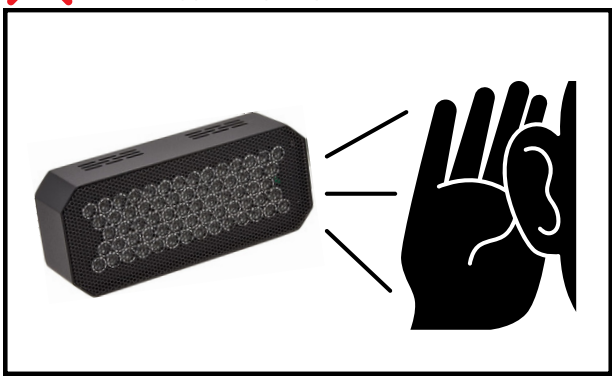
高周波音について …… 01
設置角度について …… 02
反射音について …… 03
音量設定・本体設定 …… 03
設置場所について …… 04

高周波音について

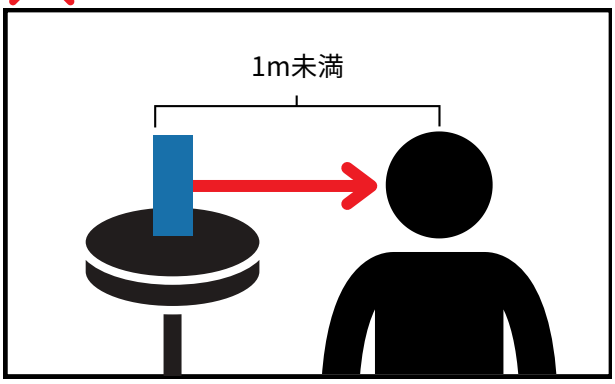
スピーカーを**真横から耳に向け、1m以内の距離で音を発生させる**行為はおやめください。高周波音を感じる場合があります。
高周波音とは「ピー」「キーン」等、いわゆる「モスキート音」と呼ばれる音を指し、一般的に若年層のほうが感知しやすいとされます。

audfly miniを設置する際は、次項の「設置角度について」を参照し、正しい位置から正しい角度で音を聞くようにしてください。

スピーカーの近くに耳を寄せ
至近距離から音を聞く



スピーカーからの音が
鼓膜に直接当たる位置に設置する



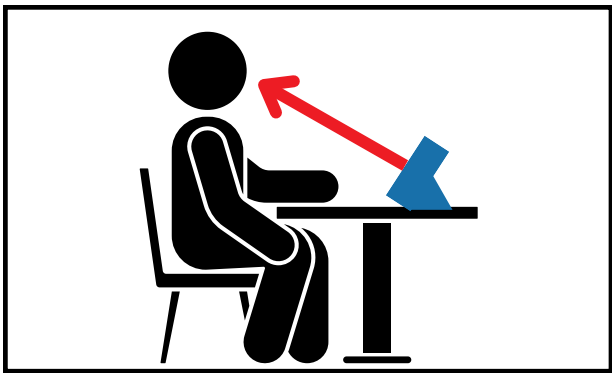
設置角度について

スピーカーを設置する際は、
リスナーの顔に**直接音**が当たるように、スピーカーの向きを注意深く設定してください。

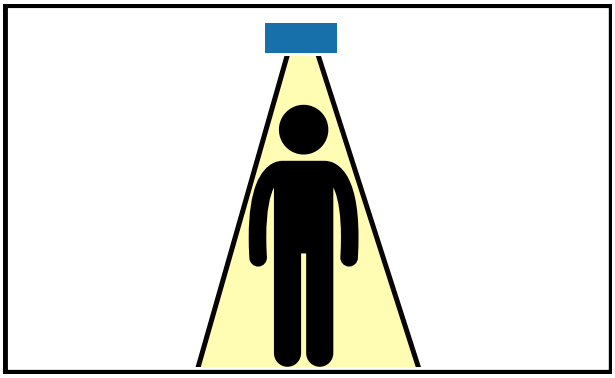
通常のスピーカーの指向角度が90°～120°ほどであるのに対し、
audfly miniの指向角度は**15°以下**であり、非常に指向性が強い製品となっています。
音の方向が少しずれるだけでも、聞こえ方に大きな差が出ます。

設置の際は、スピーカー角度を自在に調整できる取付金具をご使用になることをお勧めします。

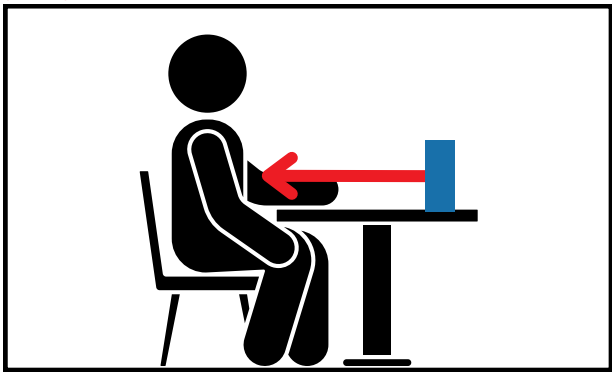
○ スピーカーがリスナーの顔と
まっすぐに向き合っている



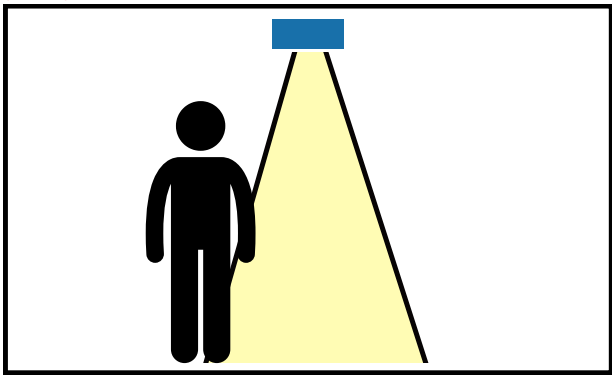
○ リスナーの顔が指向角度の
内側に入っている



× スピーカーがリスナーの顔と
正対していない



× リスナーの顔が指向角度の
内側に入っていない



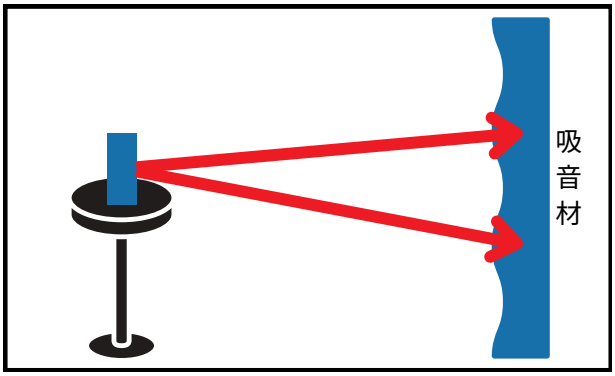
反射音について

反射音の拡散によって、超指向性スピーカーの特徴が損なわれる場合があります。
コンクリートやガラス、タイル等の内装材は特に反射音が発生しやすいです。

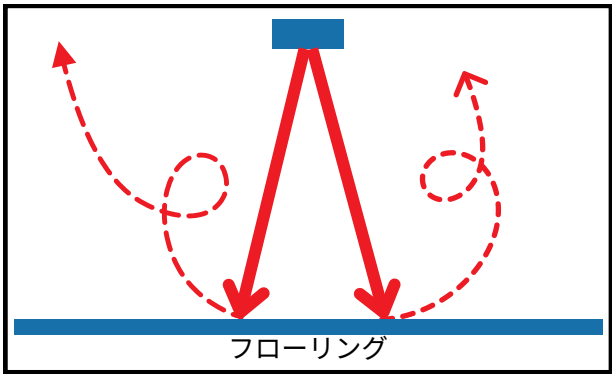
スピーカーからの音が直接当たる場所に**吸音材**を置いたり、
音量を下げて**反射音が周囲騒音よりも低くなるよう設定**したりしてご対応ください。

適切な吸音材の事例 ▶ 吸音板、カーペット、ソファ等

○ スピーカーからの音を吸音材が吸音するため、反射音が拡散しにくい



× スピーカーからの音がフローリング等の床に当たり、反射音が拡散してしまう



音量調節・本体設定について

■音量を決定する際は、リスナーの顔に直接音が当たっている状態で
音量の調整してください。
反射音を聞きながら音量の設定をすることが無いようご注意ください。

■**本製品はアンプ内蔵型**です。外付けのパワーアンプを接続しないでください。

■本体に音量・音質の調整機能は付属しておりません。
音源プレイヤーの音量コントロール、
又はプリアンプやミキサーアンプをご使用ください。

■音量入力を一定以上上げると音が歪み始めます。その場合、音量を下げて下さい。

■ON/OFFスイッチを**24時間以上連続してONの状態にしない**ようにしてください。
24時間のうち、一定時間（2時間以上程度）は、OFFの状態になるようにして下さい。

設置場所について

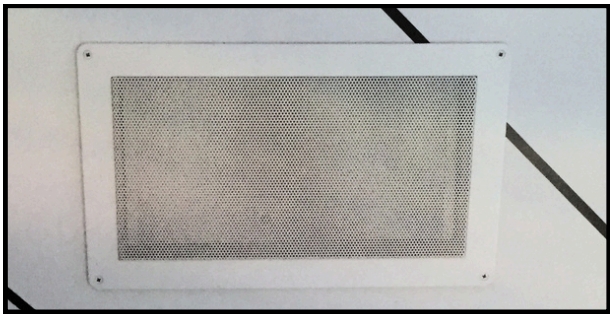
■通常のスピーカーと違い、本製品とリスナーの間に障害物・遮蔽物があると、
指向性と音量が著しく損失します。
スピーカーからリスナーへの音の通り道には物が無い状態にしてください。

適切でない設置事例

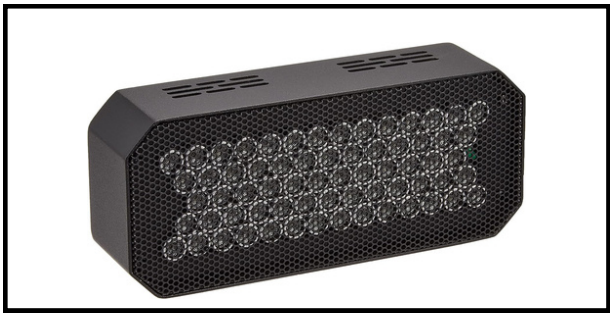
・音の進行方向に壁・仕切りなどの遮蔽物が重なっている
・スピーカー保護のため、布やビニール、紙などで本製品を覆う
・装飾のため、サランネット・グリルを被せる

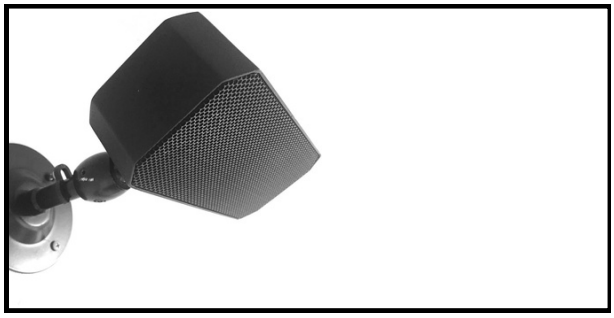
✕ 本製品に布やビニールを被せる

△ 本製品前面をグリルやサランネットで覆う
（開口率による／事前調査必須）



○ 本製品とリスナーの間に遮蔽物がなく、露出設置されている





■大音量が出るスピーカーではありませんので、
騒音レベルが高い場所に設置される場合には、事前調査を行って下さい。

■本製品を設置する際、**通気孔周辺の空間**は必ず確保して下さい。
通気孔を塞ぎ、本体内の熱量が一定以上高まりますと、本製品の稼働が停止します。
その場合は電源を抜いて、通気孔周辺の空間を確保してから再稼動して下さい。

■当製品は、超音波を利用して超指向性を実現しています。
リスナーから1m以内の距離にスピーカーを設置する際は、スピーカーの音が長時間、
リスナーの鼓膜に直接当たらないようにするため、スピーカーの音をリスナーの側面
に向かって出すことを避け、代わりに**正面から音を出す**ようにしてください。
長時間かつ至近距離で鼓膜へ音波が当たると、聴力へ影響を及ぼす可能性があります。